

# 所 信 表 明

私が、今この場所に立っているのは、混乱を終息させ、地についての改革を求める市民の皆様方の声に依っています。「改革」から「真の改革」へ、「破壊」から「創造」へ期待と希望の思いに支えられて、私は、ここに立っています。

市政への市民の皆様方の信託を厳粛に受け止めながら、平成23年第1回阿久根市議会臨時会の開会に当たりまして、市政に対する所信を申し述べたいと存じます。

何とぞ、議会並びに市民の皆様方の御理解をいただき、市政運営に御指導、御協力をお願い申し上げます。

私は、この度、1月16日に行われた阿久根市長選挙におきまして、市民の皆様方の温かい御支援により当選を果たし、第18代阿久根市長に就任いたしました。

市長になりまして、まだ2週間足らずであります。想像をはるかに超える様々な課題が山積している状況について、改めてその任の重さを感じつつ、問題処理のために奮闘しているところでございます。

私が、市政への志を固めましたのは、何といいましても阿久根市はこのままではいけない、将来の展望が見え

ない阿久根市であってはならないと、強く感じたからであります。

阿久根をこよなく愛し、阿久根の発展を心から願う市民の皆様方や、ふるさと阿久根を離れ、ふるさと阿久根を誇りとし、心の大きな励みとされている方々のためにも、私自身が先頭に立ち、大好きなふるさと阿久根の再生を行わなければならないという強い信念が市政への道を決意させたものであります。

御承知のように、現在の社会、経済情勢は厳しさと混迷を増すばかりであります。高齢化社会による福祉の問題をはじめ、景気低迷による雇用問題、あるいは、未来を担う子どもの減少による将来への不安、どれをとりましても困難な問題ばかりであります。

これらの問題に対応するために国においては、各種施策を展開し、方策を講じてきておりますが、即効的な改善はなかなかみられず、国民の不安解消には至っていない状況にあります。

地方分権の名の下に、国は地方に対し自立を求めてきましたが、財源に乏しい本市をはじめとする地方の市町村においては、行政執行に際してはまだ国や県に頼らざ

るを得ない状況であることは、多くの市民の皆様方も御理解いただいていることと思います。

しかし、私は、いかなる状況であろうとも、決してあきらめずに将来を担う子どもたちのためにも、活気あふれる明るい阿久根市をつくらなければならないと、市長としての使命感に燃えているところであります。

そこで、まず、私が市長になって最初に思い、心から願っていることは、一日も早く混乱のない明るい阿久根市になってほしいということであります。

このことは、阿久根市の将来を思っている多くの市民の皆様方の切実なる願いであります。

混乱を克服するため、私は、「対立」ではなく「対話」を基本として、市政を運営してまいります。そして、市行政の推進に当たっては、法令遵守を旨としながら、施策の実施に努めます。

社会を構成する者としてルールを守りながら、「対話」を通じて共に支えあう気持ちを持ち寄り、市民の皆様方一人ひとりが心を一つにすることによって課題の克服が初めて可能になるものと考えております。皆様方の御理解と御協力を切にお願いするものであります。

さて、私は、市民の皆様方が安心して暮らせるための福祉の充実はもとより、産業の発展並びに教育の振興など本市活性化のための多くの施策を行っていきたいと考えております。

各種事業の効果的かつ円滑な実施のためには、市民、議会の御協力をいただきながら、本市に奉職する職員一丸となって懸命の努力をしなければなりません。

市民の皆様方の職員に対する目は、年々厳しさを増してきております。職員はそのことを謙虚に受け止め、一層職務に精励することが求められております。厳しい視線は、このような混迷の時代にあって、閉塞感を打ち破る期待の表れでもあります。

このことを真摯に受け止め、全体の奉仕者としての基本的な自覚を促し、市民の皆様方が今何を求めているのか的確に判断し、市民サービスのあり方について検証をしてまいります。

また、職員には地域活動とボランティア活動への積極的な参加を求めていると思っております。地域の皆様方との活動を通して、語り合い、触れ合う中で、今、行政に対し、市民の皆様方が何を望み、求めているのか、

見えてくるものがあると思っております。

職員としてのあるべき姿について虚心になって思索し、地域の一員、社会の一員として多くの方と触れ合いながら、まちづくりへの知恵を出し合い施策に生かしていくことが行政マンとしての使命であります。また、そのことが市民の皆様方から信頼を寄せられることにつながると確信いたしております。

次に、行政改革は、市政における喫緊の課題であり、私に取り組むべき大きなテーマの一つでございます。

これまで、職員の給与が様々に取りざたされておりますが、私は、職員の仕事について、市役所内部だけではなく、外部の方々に評価していただくための機関を設置したいと考えております。そうして、評価に見合う給与はどうあるべきか検討するとともに、評価を、職員の効果的な事務処理、組織目標の達成、住民福祉の向上のために活用してまいりたいと考えております。

職員給与の削減については、多くの市民の皆様方も注目されているところであり、外部評価をはじめ、各般にわたって御意見等をお伺いしながら、また、職員に対しても対話を通じて理解を求め実施してまいります。

次に、福祉についてであります。

少子高齢化社会の進行，とりわけ本市は，その典型とも言える状態にあります。市民の皆様方のニーズはますます増加し多様なものがございます。

私は，進行する少子高齢化社会にあって，今，行政として何をしなければならないのか，これまでの計画や取組を検証しながら，関係団体等とも協議・検討を重ね，基本的な方針を取りまとめ，福祉向上に努めてまいりたいと思っております。

具体的な施策としては，まずは，交通の不便な地域の高齢者の方々のために，巡回バスやタクシーを利用した事業の拡大を図りたいと考えております。また，現在，一人暮らしの方々が増えている中で，この方々が安心して生活ができるように，社会福祉協議会や地域関係者と連携を図りながら，緊急通報装置の設置の拡充や見守りサポートの事業化の推進に努めてまいります。

さらに，少子化対策としては，この地で子どもを産み，安心して育てられる環境づくりを目指し，出生祝い金の支給や障がいを持つ子どもたちの教育環境の充実等にも努めてまいります。

次に、医療面におきましては、まず中学生以下の医療費無料化に取り組みます。また、大川診療所の医師不在により、特に高齢者の皆様方に御迷惑をおかけしているところではありますが、早急に再開できるよう医師の確保に努力してまいります。さらに、市民病院をはじめとする医療機関に対して不足している診療科目の設置をお願いし、市外の病院に行かなくても市内で診療が受けられ、安心して生活ができるような医療体制の充実に努めてまいります。

次に、産業面ではありますが、第一次産業者が自らの生産物を商品化し、二次産業的な加工、三次産業的な流通・販売を含めて付加価値を生み出すための連携した仕組づくりに努めてまいります。さらに、「アクネ・うまいネ・自然だネ」に象徴される良質な本市産品のアクネブランド化の充実に努め、「食によるまちづくり」を推進し市民の所得向上を図ります。また、市の機構として農政部門と水産部門を統合し、効果的で効率的な一次産業振興体制を確立します。

農業では後継者不足、水産業においても漁獲量の減少など、大きな問題が山積しているところではありますが、

関係団体と協議し、知恵とアイデアを出し合いながら、この厳しい情勢を乗り越えるよう努めてまいります。

次に、交通網の整備であります。南九州西回り自動車道の整備促進につきましては、多くの市民の皆様方が一日も早い整備を望んでいることであり、関係市町村や関係団体等と連携を図りながら、国に対し積極的に働きかけ、早期完成に向け努力します。

さらに、生活基盤である市道の改修につきましても、計画的な整備に努めてまいります。

次に、引き続き景気の低迷により雇用は深刻な状況にありますが、企業等の活動や雇用情報を迅速に収集し、企業誘致も含め就業支援に努めるとともに、企業等への雇用機会の拡大を要請してまいります。

次に、文化面におきましては、市民の皆様方の強い要望でもある文化会館建設に向けて、厳しい財政状況ではありますが、財源の確保に努めながら、整備方針を打ち立てたいと思っております。

市政の各分野における施策の実施、充実を通じた阿久根市の活性化は、市民皆様方の強い念願であります。

そのため、市民の方々と市職員で、仮称ではあります



が、「阿久根市活性化推進委員会」を設置し、春夏秋冬の季節ごとのイベント事業開催をはじめ、本市の活性化方策について意見を交換し、協議・検討を行いたいと考えております。

ここでの議論は、阿久根市のイメージアップと産業振興や観光振興にも大きく寄与するものと思っております。

そして、これらのベースとして、市民の皆様方の市政への参加、まちづくりへの参画を図り、住民自治に基づく自治体運営の基本原則を定めた自治基本条例の制定に努力します。

以上、市政の各分野における所信の一端を申し述べてまいりましたが、私は、公約の中で、市民の皆様方から御意見を伺い、その中で、阿久根市が抱える諸問題の解決、阿久根市が進むべき道の方向性を決めさせていただきたいことを強く申し上げてまいりました。

このことは、市民の皆様方の声を重視し、それらの意見を参考にして、市政を推進していくということでございます。

私は、議論を厭<sup>いと</sup>うものではありません。議会においても、市政に関する自らの考えを申し述べ、皆さん方からもいろいろな御意見をいただき、そして建設的な行政

運営を目指していきたいと考えております。また、多くの市民の方々と「対話」をしていきたいのです。そこでいただいた御意見は、市政運営にとってきっと貴重なものになると考えております。

今、阿久根は、「変革」の時です。持続可能な「変革」は地に足をつけて行わなければなりません。また、法令を厳守しながら秩序をもってなされなければなりません。

今こそ、「対立」から「対話」へ、「混乱」から「安定」へ、「破壊」ではなく「創造」へ、市民、議会、市長、職員等々この地域の発展を願う者全てが一丸となって協力し合うべき時であります。

そのことは、将来を担う子どもたちに「希望にあふれた未来」を残すべき我々の責務であります。

この責務を重く受け止め、さらに厳しい状況ではありますが、私はひるむことなく、あきらめずに、もっている全ての力を市民の皆様方のために、阿久根市発展のために尽くす覚悟でございます。

何とぞ、市議会をはじめ、市民の皆様方のより一層の御理解と御協力をお願い申し上げ、所信の表明とさせていただきます。